

科目名	保育実習Ⅱ 事前事後指導				担当	千葉 直紀・堤 裕美		
形態	演習	単位数	1	開講時期	2年通年	実務経験	保育士として保育施設で勤務経験あり（千葉）	
必修	保育士：選択必修				ナンバリング	Y5107	DPとの関連	免1
授業概要	<p>本科目は、「保育実習Ⅱ」を実施するために必要な事前の知識・技術の習得を目指すとともに、実習に必要となる書類の準備や、人権の尊重、守秘義務の厳守等、実習生としての心構えの確認を行う授業である。15回の事前事後指導すべてに出席することが、「保育実習Ⅱ」実施の条件である。</p>							
到達目標 学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う 3. 保育の観点、記録及び自己評価を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする 							
授業計画	回	内容						
	1	保育実習Ⅱの意義①	実習の意義・目的・内容の理解について学ぶ					
	2	〃 ②	自己の課題の明確化を図る					
	3	保育実習による総合的な学び①	子どもの最善の利益を考慮した保育を具体的に理解する					
	4	〃 ②	子どもの保育と保護者支援 地域における子育て支援について学ぶ					
	5	保育実践力の育成①	子どもの状況に応じた適切なかかわりについて学ぶ					
	6	〃 ②	特別な支援の必要な子どもに対するかかわりについて学ぶ					
	7	計画と観察、記録、自己評価①	保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践をする					
	8	〃 ②	保育の観察と記録について学ぶ					
	9	〃 ③	日誌の書き方について実践的技術を身に付ける					
	10	〃 ④	時案の書き方について実践的技術を身に付ける					
	11	保育実践力の育成①	時案に基づき模擬保育を行う①					
	12	〃 ②	〃 ②					
	13	〃 ③	他者の保育の観察、記録及び視聴覚教材を使用した自己評価に基づいて自己の課題を明確にする					
	14	保育士の専門性と職業倫理	保育所の役割と機能から見た保育士の専門性と職業倫理を理解する					
15	事後指導	自己評価に基づく保育の改善と評価伝達を受ける						
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人としてふさわしい常識と意欲を持って事前指導に臨めたか 2. 実習で必要とされる保育技能の修得に取組み、実践できたか 3. 保育士に求められる職業倫理について説明できるか 							
評価方法	授業態度 50% その他 50%（課題・提出物）							
フィードバック 方法	授業内課題の返却及び学生間での共有を図る							
アクティブ ラーニング	視覚教材を用いたグループワークやディスカッションを行う							
教科書	『保育所保育指針』、『実習ガイドブック』上田女子短期大学 『保育所保育指針ハンドブック』学研							
参考書	『教育・保育実習のデザイン』萌文書林							
履修条件	<p>本授業を受講するためには、原則として「保育実習Ⅰ」をすべて履修済みであることが必要である。また、本学幼児教育学科において定める実習実施基準が、「保育実習Ⅱ」実施の条件となる。また15回目の実習事後指導は、実習園での12日間の保育実習を行った学生のみが出席できる。「保育実習Ⅱ」が何らかの事情で中止となった学生は、本科目の単位認定も行われないので注意すること。</p>							
授業外学習	保育所保育指針を精読し、保育者に求められる資質・能力について、自分なりの考えをまとめておくこと							
オフィスアワー	学生支援課の掲示板に掲示する							